

客観的な指標の算出方法

1. 学修の評価

- ・学則及び学則施行細則において、出席、試験、成績、進級及び卒業要件について規定し、当該規定を遵守して各学生の学習成果に対して厳格な評価を実施している。なお、学生に対しては当該規定を学生便覧に記載して周知を図っている。
- ・講義要項（シラバス）に成績評価の方法・基準を明記するか、初回授業で説明する。
- ・学修成果は、試験の成績及びレポート、平素の授業態度、技術習得状況、出席状況並びに実習の成績等により、科目担当教員が総合的に判断し評定する。
- ・学修評価の基準は、優（80点以上）、良（70点以上80点未満）、可（60点以上70点未満）、不可（60点未満）で評定し、可以上を合格とする。
- ・出席した時間数が、理学療法学科及び言語聴覚療法学科においては履修時間数の5分の4、看護学科においては履修時間数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。また、臨床実習並びに臨地実習は、理学療法学科及び言語聴覚療法学科においては10分の1、看護学科においては3分の2に達しない者は、その評価を受けることができない。
- ・試験によって不合格となった科目に対しては再試験（再実習）を行うことがある。

2. 客観的な指標

- ・学業の達成度を客観的に評価するための指標として GPA（Grade Point Average）を採用し、分布状態を把握している。
- ・GPA は、学修の評価の優～不可に 4～0 ポイント（Grade Point）を付与し積算したものを履修総単位数で割って平均化した値で表し、GPA の最高は 4.0 となる。（小数点 2 位以下四捨五入）

$$\text{GPA} = (\text{各科目の評価ポイント} \times \text{単位数}) \text{の合計} / \text{履修単位数の合計}$$

- ・評価ポイント

学修の評価	素点	評価ポイント
優	80～100 点	4 ポイント
良	70～79 点	3 ポイント
可	60～69 点	2 ポイント
不可	～59 点	0 ポイント